

奈良県感染症情報

平成 26 年 第 38 週(9 月 14 日～ 9 月 20 日)

奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

■ 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	2.18	(1.74)	↗	→	↗	↗↗
2	RS ウイルス感染症	0.82	(0.65)	↗↗	↗↗	↑	↓
2	手足口病	0.82	(0.94)	↓	↘	↓	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	0.71	(0.91)	→	→	↗	↗
5	突発性発しん	0.44	(0.41)	→	→	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↗↗**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

このところ、全体的に患者数は少なく、落ち着いた状況ともいえますが、RSウイルス感染症は、例年並みに増加を続けています。その他、インフルエンザやマイコプラズマ肺炎もごくわずかながら、報告が続いています。インフルエンザは、他県では9月に入った頃から学級閉鎖が相次いでおり、奈良県でも昨年は9月末には奈良市内で学級閉鎖がありました。インフルエンザは、飛沫感染と接触感染で感染します。インフルエンザの感染を防ぐポイント「**手洗い**」「**マスク着用**」「**咳(せき)エチケット**」を心がけましょう。

❖ 小児科外来情報 ❖

北部地区(矢追医院)

感染症対象疾患は、例年通り少ない状態が続いています。手足口病が乳幼児であり、伝染性紅斑が幼児以上で見られます。久しぶりに流行性耳下腺炎がありました。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数はそう多くない。
ヘルパンギーナ、手足口病等夏風邪は殆ど減少した。
伝染性紅斑が少し。感染性胃腸炎も減少。
アレルギー疾患が多く感染症の登録疾患は少ない状況。

南部地区(県立五條病院小児科)

嘔吐、頭痛、発熱のあと水様下痢が数日続く感染性胃腸炎が急増している。発症時、輸液を必要とする症例も多いがほとんど重症化せずに軽快している。
また、咳嗽遷延例もさらに増加。下気道感染併発や喘息発作誘発例もあり、注意を要する。



❖ 定点把握感染症報告状況 ❖

平成 27 年 第 38 週 9 月 14 日 ~ 20 日

保健所別報告数	奈良県		北部		中部		南部	
	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野		
インフルエンザ定点数	54	11	16	11	11	2	3	
インフルエンザ	3 (0.06)		1 (0.06)	2 (0.18)				
小児科定点数	34	7	10	7	7	1	2	
RSウイルス感染症	28 (0.82)	5 (0.71)	9 (0.90)	5 (0.71)	9 (1.29)			
咽頭結膜熱	9 (0.26)		4 (0.40)	1 (0.14)	4 (0.57)			
A群溶連菌咽頭炎	24 (0.71)	3 (0.43)	7 (0.70)	3 (0.43)	8 (1.14)		3 (1.50)	
感染性胃腸炎	74 (2.18)	12 (1.71)	14 (1.40)	20 (2.86)	18 (2.57)	9 (9.00)	1 (0.50)	
水痘	5 (0.15)	3 (0.43)	1 (0.10)	1 (0.14)				
手足口病	28 (0.82)	15 (2.14)	5 (0.50)	2 (0.29)	5 (0.71)		1 (0.50)	
伝染性紅斑	6 (0.18)	3 (0.43)		2 (0.29)	1 (0.14)			
突発性発しん	15 (0.44)	3 (0.43)	7 (0.70)	3 (0.43)	2 (0.29)			
百日咳								
ヘルパンギーナ	7 (0.21)	1 (0.14)	3 (0.30)		3 (0.43)			
流行性耳下腺炎	6 (0.18)	2 (0.29)		2 (0.29)	2 (0.29)			
眼科定点数	9	1	3	2	2	0	1	
急性出血性結膜炎								
流行性角結膜炎	2 (0.22)		1 (0.33)				1 (1.00)	
基幹定点数	6	1	2	1	1	1	0	
細菌性髄膜炎								
無菌性髄膜炎								
マイコプラズマ肺炎	1 (0.17)						1 (1.00)	
クラミジア肺炎								
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)								

❖ 全数把握感染症報告状況 ❖ ()は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核5件(奈良市1、中和2、内吉野2)
3類感染症	
4類感染症	
5類感染症	アメーバ赤痢1件(中和1) ウイルス性肝炎1件(中和1) カルバペネム耐性腸内細菌感染症1件(中和1)

❖ 第 38 週のトピックス ❖

平成27年度新型インフルエンザの診療と対策に関する研修
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/kouen-kensyuukai.html>

※平成27年2月16日より桜井保健所と葛城保健所は統合され中和保健所となりました。
 旧桜井保健所分は中和(東)、旧葛城保健所分は中和(西)として集計しています。

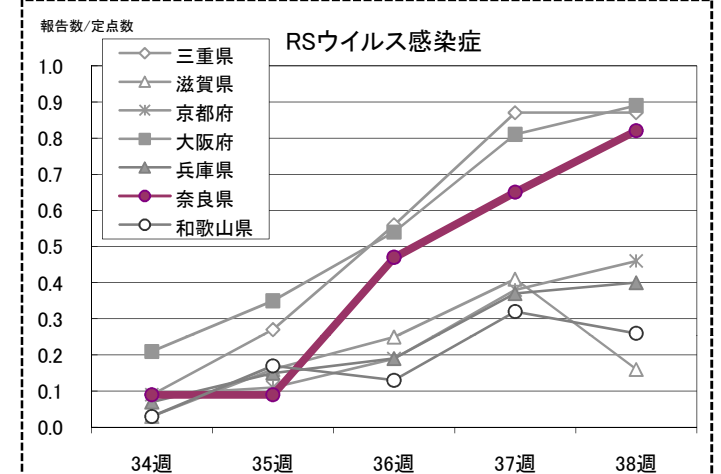
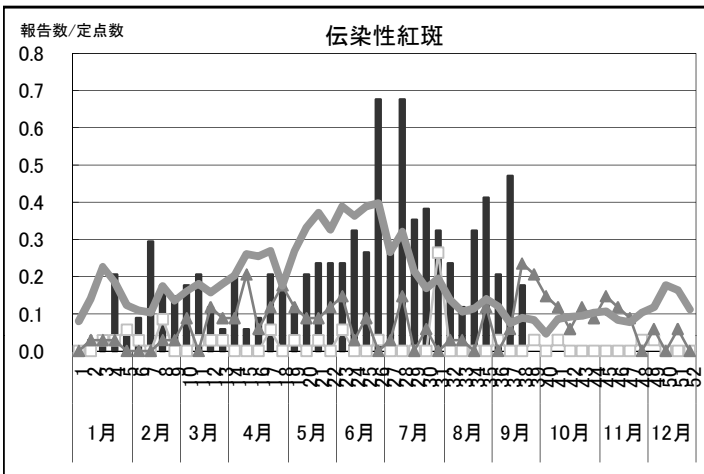
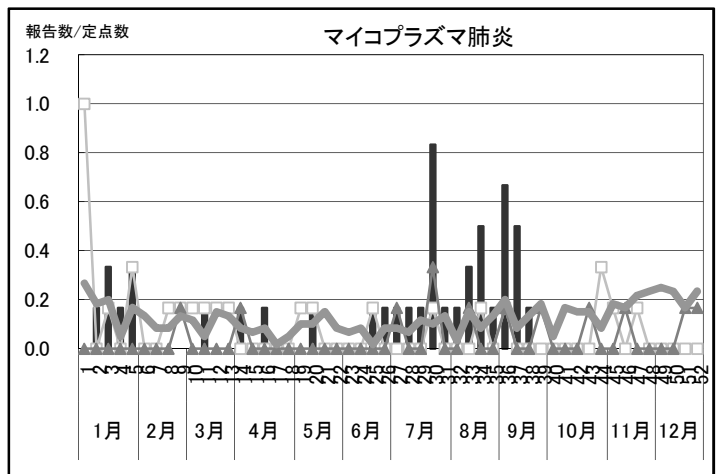
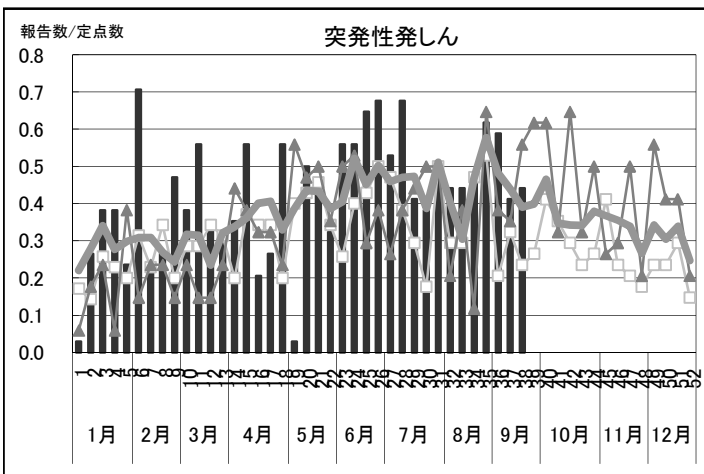
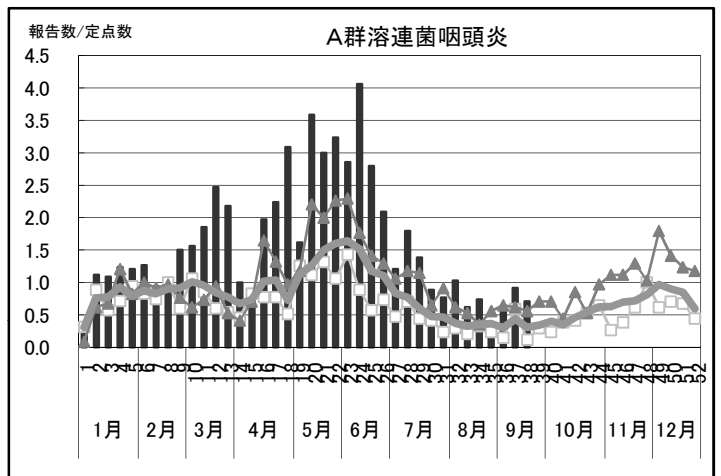
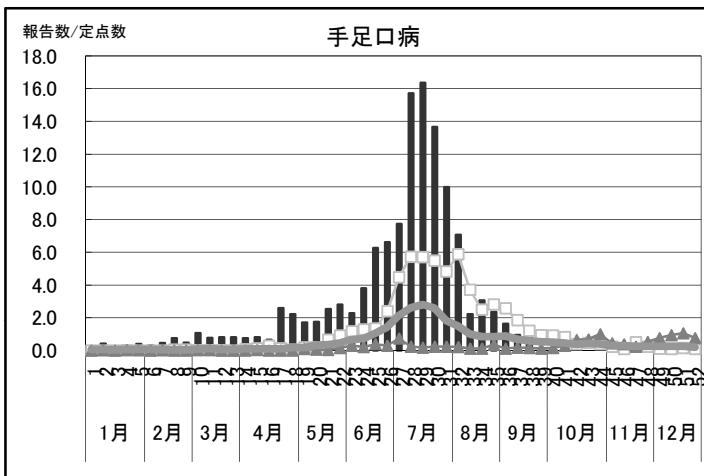
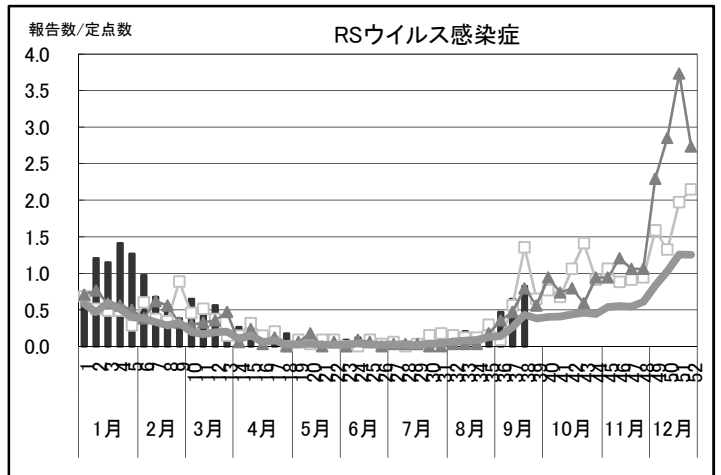
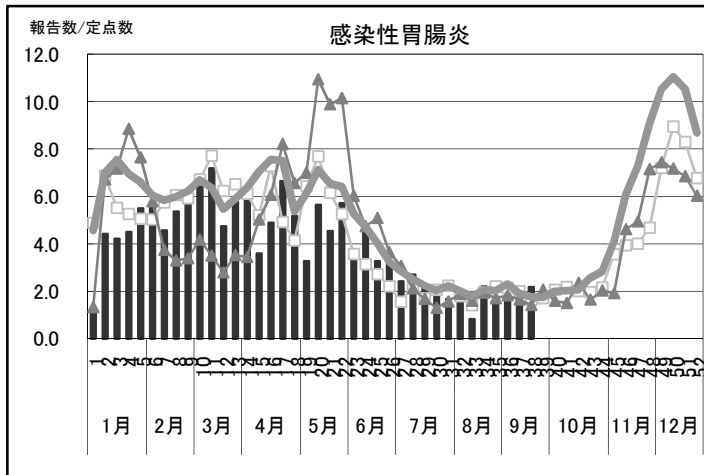
上段 : 報告数
 (下段) : 定点当たり報告数 報告数÷定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	累計	
インフルエンザ	男				1								1								1	3	3978	
	女																						3	3995
RSウイルス感染症	男		4	3	5	1	1															14	246	
	女		5	5	1	2	1															14	238	
咽頭結膜熱	男		1		1				1													4	234	
	女				1	2							1		1							5	195	
A群溶連菌咽頭炎	男			2		1	2	2	1	3	2		1									14	1113	
	女				2	1	3						3		1							10	953	
感染性胃腸炎	男		3	3	9	3	2	2	1	5	3	2	1	3	4							41	2621	
	女	1	2	6	4	4	6		1		1	1	1		6							33	2455	
水痘	男				1	1																2	188	
	女				1	1				1												3	179	
手足口病	男		3	3	3	1	4															14	2265	
	女		3	7	2	2																14	1912	
伝染性紅斑	男							1	2		1											3	139	
	女											1			1							3	152	
突発性発しん	男		4	1	1			1	1													8	286	
	女		3	4																		7	263	
百日咳	男																						5	
	女																						4	
ヘルパンギーナ	男		1	2				1														4	344	
	女		1	1	1																	3	308	
流行性耳下腺炎	男						2	2		1												5	77	
	女													1								1	84	
急性出血性結膜炎	男																						3	
	女																						2	
流行性角結膜炎	男															1			1			2	56	
	女																						51	
細菌性髄膜炎	男																						4	
	女																						4	
無菌性髄膜炎	男																						1	
	女																						2	
マイコプラズマ肺炎	男				1																	1	19	
	女																						17	
クラミジア肺炎	男																						1	
	女																						60	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	男																						48	
	女																						48	

❖注目疾患の動向❖ 全て定点当たり報告数

■ H27 ▲ H26 □ H25 〰 過去10年平均



中東呼吸器症候群(MERS)

《注意》 MERSが発生している中東諸国で、患者やラクダと接触した方は、感染の可能性があるため、検疫所が最大14日間の健康監視(※)を行う場合があります。

※健康監視とは、検疫所に毎日体温等の健康状態を報告することです。

【症状】

感染してから2～14日後に、呼吸器症状(発熱、咳、息切れや呼吸困難など)を引き起こします。感染しても症状が出ない場合もあります。

【治療】

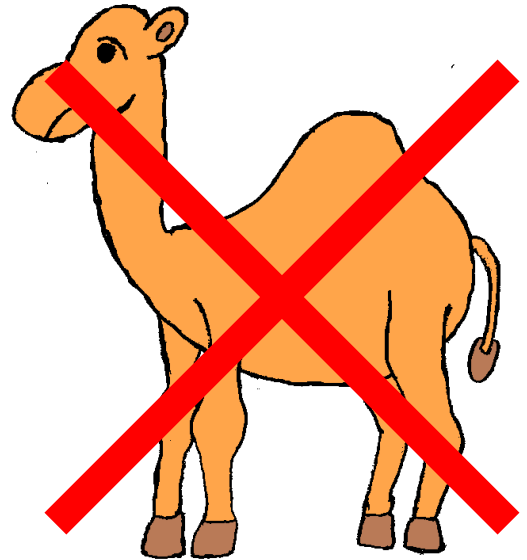
特別な治療方法やワクチンはありません。

【予防対策】

- ・一般的な衛生対策として手洗いをを行う。
- ・咳やくしゃみなどの症状を示している人との接触はできる限り避ける。

【入国時に検疫所で】

発熱や咳などの呼吸器症状がある方や、MERSが疑われる患者又はラクダと接触した可能性がある方は、必ず、検疫官にお申し出ください。



ラクダなど、動物との接触や、殺菌されていない乳や肉の喫食を避けましょう!!

【入国後症状が出たら】

入国後14日以内に、発熱や咳などの呼吸器症状がみられた方は、速やかに電話にて最寄りの保健所にご連絡ください。



【発生が報告されている中東諸国】

国立感染症研究所ホームページ

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/>

検疫所ホームページ FORTH

<http://www.forth.go.jp>